



2020年3月12日

卒業式・修了式

学長【式辞】

福岡女学院大学 福岡女学院大学大学院
福岡女学院大学短期大学部

学長 阿久戸 光晴

知られざる所をまことの故郷として

ヘブライ人への手紙 11章8節

はじめに新型コロナウイルスの世界的蔓延に対処し、万一でも卒業生・修了生諸君に何もないことを優先し、また卒業後・修了後の諸君の歩みを万全なものとするため、このような形を取りましたことをご賢察ください。私たちにとりましても苦渋の決断でした。そして何よりも本日参列の卒業生、修了生、またこの映像を見ておられる大学及び短期大学の卒業生、大学院の修了生のすべての皆さん、保護者の皆様はじめご関係の方々に心からおめでとうと申し上げます。卒業生・修了生の皆さんの真摯な研鑽の努力に敬意を表するとともに、保護者はじめご関係の皆様に対し心からの祝意とともに、本学の教育へのご理解とご協力への感謝を申し上げます。併せて皆さんをある時は叱責しある時は励まし、厳しくも温かくご指導された本学の教職員一同にも心より敬服申しあげます。

さて、本学を巣立つ皆さんへの祝福の聖句として、新約聖書・ヘブライ人への手紙 11章8節をお贈りします。信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。(ヘブライ書 11章8節)

この聖句は、信仰者の祖アブラハムが行き先も知らずに出発したとあります。アブラハムはユーフラテス川のほとりハランという地でそれなりに生活の糧を得て良好な人間関係を築いていたことでしょう。しかし神からハランを出てある地へ行くように言われた時、正に行く先を知らずに出発したのです。ハランから出るということはその地での生活の糧や人間関係を捨てて行くことを意味します。アブラハムはなぜそうしたのかと言えば、神様への信頼・信仰があったからです。そもそも私たち人間はこの地上では旅人であり、寄留者です。でも信仰者はけっして「旅の恥は掻き捨て」などということはせず、遣わされた場所に仕え、そこでまた良き人間関係を築き、そこを潤いある場所にして行こうとします。なぜならアブラハムをはじめ信仰者は皆本当の天の故郷（ふるさと）を求めているからです。知らない所こそまことの故郷になりうるのです。

現在は依然として就職難の時代です。この厳しい時代にあって、中には今しばらく就職先を探し続ける仲間もいるでしょうし、微妙な処遇条件のもとでお仕事を始める仲間もいるかもしれません。また中には故郷を離れて、遠き地で働き始める仲間もおられることでしょう。いろいろ予想される荒波に揉まれる中で皆さんは、本学で学んだことを忘れず、遣わされた場で精一杯そこで仕えるのであります。

もう一度、卒業・修了おめでとう。神様の御祝福を祈りつつ。